

IgG 抗体精製用シリンジタイプ

Ex-Pure ProA/ProG 取扱説明書

本製品は均一な連続孔を持つフィルター型モノリスシリカを固相表面に、(独)産業技術総合研究所の技術を用いてプロテイン A(もしくは G)を固定化しております。両技術により、簡単に短時間での IgG 抗体精製を可能にしました。

1. はじめに

開封されましたら梱包内容、チップの概観、数量、溶媒などに異常がないかお確かめ下さい。

・モノリスシリカシリンジカラム	4 本
・遠心アダプタ	4 個
・取扱説明書	1 部

2. 取扱いの注意

- シリンジカラムを落としたり、ぶつけたりしないでください。強いショックを与えるとモノリスゲルが壊れることがありますのでご注意ください。
- 遠心機を用いる場合は装置の蓋などに接触しない事を確認の上ご使用下さい。
- 使用しないときは、冷蔵で保管してください。モノリスシリカゲルを乾かさないように、シリンジカラム内を 20%エタノールで満たしてください。カラム性能が低下する場合があります。

3. 操作例

ステップ 1) シリンジカラムの上のふたを取り外し、カラム内の保存液を廃棄する。下のキャップを取り外し、付属の遠心アダプタにカラムを装着し、50ml 遠心管に装着する。

ステップ 2) 吸着溶液を 5 mL 加えて遠心を 1500 × g で 2 分程度行う。

ステップ 3) 抗体試料を 5 mL アプライ (試料の pH を 7 付近に調整しておく。吸着溶液でよい)し、遠心を 1500 × g で 2 分程度行う。濃縮精製を行う場合は、試料アプライ→遠心→試料アプライ、というようにステップ 3 のアプライ数を増やす。

ステップ 4) 洗浄溶液を 5 mL 加えて遠心を 1500 × g で 2 分程度行う。

ステップ 5) サンプルングチューブに中和溶媒を 0.5 mL 入れておき、カラムに溶出溶液を 5 mL 加えて遠心を 1500 × g で 2 分程度行い、通過液を回収する。

再使用する場合)

ステップ 6) 再生溶液を 5 mL 加えて遠心を 1500 × g で 2 分程度行う。

ステップ 7) ステップ 1 の吸着溶液を加えるところから行う。

※ 遠心の時間は、試料濃度などに影響があります。

※ 使用溶液

・吸着溶液: 50 mM リン酸ナトリウム緩衝溶液+150 mM NaCl (pH7.0)

・洗浄溶液: 50 mM リン酸ナトリウム緩衝溶液+1 M NaCl (pH7.0)

- ・溶出溶液 (ProA): 100 mM グリシン-HCl緩衝溶液 (pH3.5)
- ・溶出溶液 (ProG): 100 mM グリシン-HCl緩衝溶液 (pH2.5)
- ・再生溶液: 100 mM グリシン-HCl緩衝溶液 (pH2.5)
- ・中和溶液: 1 M Tris-HCl緩衝溶液 (pH8.5)

4. 保管について

使用しない時は、冷蔵で保管してください。モノリスシリカゲルを乾かさないように、スピнкаラム内を 20vol%エタノールで満たしてください。カラム能が低下する場合があります。

なお、本製品は研究目的で製造しております。研究目的以外でのご使用に関しては保証いたしかねます。